EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

cited in the European Search Report of EP 03 76 8368.7 Your Ref.:

PUBLICATION NUMBER

06293910

PUBLICATION DATE

21-10-94

APPLICATION DATE

07-04-93

APPLICATION NUMBER

05080945

APPLICANT: NIPPON STEEL CORP;

INVENTOR: YAMAZAKI KAZUMASA;

INT.CL.

: C21D 8/02 C22C 38/00 C22C 38/04

TITLE

PRODUCTION OF HIGH STRENGTH HOT ROLLED STEEL PLATE EXCELLENT IN

BORE EXPANDABILITY AND DUCTILITY

ABSTRACT :

PURPOSE: To stably produce a high strength hot rolled steel plate excellent in bore expandability and ductility by successively applying hot rolling, cooling, and coiling to a steel slab with specific composition under respectively specified conditions and forming a specific structure.

CONSTITUTION: A steel, having a composition consisting of, by weight, 0.01-0.08% C, 0.30-1.50% Si, 0.50-2.50% Mn, ≤0.03% P, ≤0.005% S, and balance Fe with inevitable impurities, is hot-rolled at a temp. not lower than the Ar₃ transformation point, successively cooled down to 650-700°C at ≥20°C/sec cooling rate, air-cooled at this temp. for 2-1 5sec, water-cooled again, and coiled at 350-600°C, by which the steel is formed into a structure consisting of ≥90% ferrite and the balance bainite. Further, one or ≥2 kinds among 0.010-0.040% Nb, 0.010-0.150% Ti, and 0.0005-0.0100% Ca can be incorporated.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO

BNSDOCID: <JP__ 406293910A_AJ_>

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-293910

(43)公開日 平成6年(1994)10月21日

(51) Int.Cl.5

庁内整理番号

C 2 1 D 8/02

A 7412-4K

C 2 2 C 38/00

301 W

38/04

FΙ

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 6 頁)

(21)出願番号

特顏平5-80945

(71)出願人 000006655

新日本製鐵株式会社

(22)出願日

平成5年(1993)4月7日

東京都千代田区大手町2丁目6番3号

(72)発明者 福田 修史

東海市東海町5-3 新日本製鐵株式会社

名古屋製鐵所内

(72)発明者 水野 博之

東海市東海町5-3 新日本製鐵株式会社

名古屋製鐵所内

(72) 発明者 麻生 敏光

東海市東海町5-3 新日本製鐵株式会社

名古屋製鐵所内

(74)代理人 弁理士 茶野木 立夫 (外1名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 穴拡げ性と延性に優れた高強度熱延鋼板の製造方法

(57)【要約】

【目的】 特定組成の鋼スラブに特定条件下で熱間圧 延、冷却、巻取りを順次施し、特定の組織とすることに より、穴拡げ性と延性に優れた高強度熱延鋼板を安定し て製造する。

【構成】 重量%で、C:0.01~0.08%、S i:0.30~1.50%. Mn:0.50~2.50 %、P:0.03%以下、S:0.005%以下、残部 Feおよび不可避的成分からなる鋼を、Ara 変態点以 上で熱問圧延し、引き続き20℃/sec以上の冷却速度で 650~700℃まで冷却し、該温度で2~15秒間空 冷したのち、再度水冷して350~600℃で巻取り、 鋼組織をフェライトが90%以上、残ベーナイトとす る。更に、Nb:0.010~0.040%、Ti: 0. $010\sim0$. 150%, Ca:0. $0005\sim0$. 0100%を1~2 種類以上含有させてもよい。

7

【特許請求の範囲】

【請求項1】 重量%で

 $C = 0.01 \sim 0.08\%$

 $Si = 0.30 \sim 1.50\%$

 $Mn = 0.50 \sim 2.50\%$

P ≤0.03%

S ≤0.005%

残部Feおよび不可避的成分からなる鋼を、圧延終了温 度をAra 変態点以上とする熱間圧延をし、引き続き2 し、該温度で2~15秒間空冷したのち、再度水冷して 350~600℃で巻取り、鋼組織をフェライトが90 %以上、残ペーナイトとすることを特徴とする穴拡げ性 と延性に優れた高強度熱延鋼板の製造方法。

【請求項2】 Nb:0.010~0.040%

 $Ti:0.010\sim0.150\%$

からなる強度改善元素のうち何れか1種または2種を含 有する請求項1記載の製造方法。

【請求項3】 Ca:0.0005~0.0100%を 含有する請求項1記載の製造方法。

【請求項4】 Nb:0.010~0.040%

 $Ti: 0. 010 \sim 0. 150\%$

からなる強度改善元素のうち何れか1種または2種、C a:0.0005~0.0100%を含有する請求項1 記載の製造方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は主としてプレス加工され る自動車足廻り部品等を対象とし、1.4~6.0 m程 し、穴拡げ性と延性に優れた熱延高強度鋼板の製造方法 に関するものである。

[0002]

【従来の技術】近年、自動車の燃費改善対策としての車 体軽量化、部品の一体成形によるコストダウンのニーズ が強まり、プレス加工性に優れた熱延高強度鋼板の開発 が進められてきた。従来、加工用熱延鋼板としては、フ ェライト・マルテンサイト組織からなるDual Ph ase鋼板が知られている。Dual Phase鋼板 は、軟質なフェライト相と硬質なマルテンサイト相の複 40 合組織で構成されており、著しく硬度の異なる両相の界 面からポイドが発生して割れを生じるため穴拡げ性に劣 る問題があり、足廻り部品等の高い穴拡げ性が要求され る用途には、不向きであった。

【0003】このため特開平4-88125号公報、特 開平3-180426号公報にベーナイトを主体とした 組織から構成される、穴拡げ性の優れた熱延鋼板の製造 方法が提案されている。しかしながら自動車のさらなる 軽量化指向、部品の複雑化等を背景に上記技術では対応 ている。

【0004】また自動車の足廻り部品では絶えず繰り返 し疲労を受けているため、鋼板の疲労特性の劣化が大き な問題となっている。従来の穴拡げ性に優れた鋼板はベ ーナイト組織が主体であるため疲労特性に劣っており、 穴拡げ性と疲労特性の両立に着目した鋼板は見当らな

[0005]

【発明が解決しようとする課題】本発明は強度590~ 0℃/sec以上の冷却速度で650~700℃まで冷却 10 780N/mm² クラスで、穴拡げ比が590N/mm² ク ラスで2. 1以上、780N/mm2 クラスで1. 8以 上、伸びが590N/mm²クラスでE1≥26%、78 0 N/mm² クラスでE 1 ≥ 2 0%の鋼板を経済的に製造 する方法を提供するものである。

[0006]

【課題を解決するための手段】本発明の要旨は次の通り である。

(1) 重量%でC = 0. $0.1 \sim 0$. 0.8%, Si = 0. $30 \sim 1.50\%$, $Mn = 0.50 \sim 2.50\%$, $P \le$ 20 0.03%、S≦0.005%を含み、残部Feおよび 不可避的成分からなる鋼を、圧延終了温度をAra変態 点以上とする熱問圧延をし、引き続き20℃/sec以上の 冷却速度で650~700℃まで冷却し、該温度で2~ 15秒間空冷したのち、再度水冷して350~600℃ で巻取り、鋼組織をフェライトが90%以上、残ペーナ イトとすることを特徴とする穴拡げ性と延性に優れた高 強度熱延鋼板の製造方法。

[0007] (2) Nb: 0. 010 \sim 0. 040%. Ti:0.010~0.150%からなる強度改善元素 度の板厚で、590~780N/ $ext{m}^{2}$ の引張強度を有30のうち何れか1種または2種を含有する(1)記載の製 造方法。

> (3) Ca: 0.0005~0.0100%を含有する (1) 記載の製造方法。

(4) Nb: 0. $010\sim0$. 040%, Ti: 0. 0 10~0.150%からなる強度改善元素のうち何れか 1種または2種とCa:0.0005~0.0100% を含有する(1)記載の製造方法。

[0008]

【作用】以下に本発明の各構成要件の限定理由について 説明する。Cは強度確保のため少くとも0.01%は必 要である。しかし0.08%を超えると穴拡げ性に有害 な炭化物(セメンタイトまたはパーライト)生成するの で好ましくない。このため 0.01~0.08%とし た。

【0009】Siは穴拡げに有害な炭化物の生成を抑え ポリゴナルフェライトの生成を促し、フェライト主体+ ペーナイトの複合組織を得るために重要な元素である。 またSiは強度と延性を両立させる作用もある。このよ うな組織を得ること、強度、延性を高めるために 0.3 しきれない高度な加工性、さらなる高強度化が求められ 50 0%以上の添加が必要である。一方、上限は点溶接性、

経済性から1.5%とした。

【0010】Mnは強度を確保するのに必要な元素であり、最低0.50%の含有が必要である。また焼入れ性を高め、ベーナイト組織を得るためにも0.50%以上の含有が必要である。しかし多量に添加すると帯状の組織が生成しやすくなるため加工性が劣化する。また経済性、点溶接性を考慮し、上限は2.50%とした。Pは溶接性、加工性、2次加工性、物性の劣化防止のため0.03%以下とした。

【0011】SはMnS等の非金属介在物を生成し、穴 10 拡げ性を劣化させるので含有量は少い程好ましく、0.005%以下とした。Nb, Tiは炭空化物形成元素であり、析出硬化により引張強度の増加に有効である。効果を有効に発揮させるためには、Nb, Tiともに少くとも0.01%の添加が必要である。しかしこれらの元素を過多に添加すると、析出強化が過度となり延性が劣化し、あるいは上記効果が飽和して経済的にも不利であるので、添加の上限をNbは0.040%、Tiは0.150%とする。これらの元素は単独で添加しても効果があり、また複合添加しても相乗的な効果を得ることが 20できるので高強度を得るのに有効である。

【0012】 Caは硫化物系介在物を形態制御し、穴拡 げ性向上に有用で少くとも0.0005%の添加が必要である。一方、多量の添加は逆に鋼の清浄度を悪化させて穴拡げ性を損うので、上限を0.0100%とする。

【0013】仕上圧延終了温度はフェライトの生成を防ぎ穴拡げ性を良好にするためAri変態点以上とする必要がある。しかし余り高温になると組織の粗大化による延性の低下を生じるため950℃以下とすることが好ましい。冷却速度は穴拡げに有害な炭化物形成を抑制し、高い穴拡げ比を得るため20℃/sec以上が必要である。一方、上限は高い程好ましいが現状の圧延設備の場合、

可能な上限は150℃/sec程度である。

【0014】連統冷却の途中650~700℃で2~15秒間の空冷は本発明において特に重要な点であり、これによって本発明の特徴であるフェライト主体の組織とすることができる。本発明者等が実験により知見したところでは、穴拡げ性と延性の向上にはフェライト90%以上の占積率とすることが必要であり、そのためには上記温度で2~15秒の空冷が必要となる。即ち2秒未満ではフェライトが充分に生成できず、また15秒超になると穴拡げに有害なパーライトとセメンタイトが生成する

【0015】 巻取温度が350℃未満だと穴拡げ性に有害な硬質のマルテンサイトが発生するため350℃以上とする。一方、上限は600℃超になると穴拡げ性に有害なパーライト、セメンタイトが生成するため600℃以下とする。このように350~600℃で巻取ると穴拡げに有害な組織の発生がなく、前述の650~700℃での空冷によって得たフェライト90%以上の組織のまま残りの10%以下を穴拡げ性に害をなさないベーナイト組織とすることができ、これにより強度向上に寄与できる。

【0016】以上のような成分と熱延条件の組み合わせにより、フェライト占積率90%以上、ベーナイト占積率10%以下の混合組織とし、穴拡げ性および延性に優れた熱延網板を得ることができる。

[0017]

【実施例】表1に示す化学成分組成を有する鋼を転炉溶製して、連続鋳造にてスラブとし、表2に示す熱延条件で圧延・冷却し、板厚2.6~3.2㎜の熱延鋼板を得た。

[0018]

【表1】

(4)

特開平6-293910

		5								
									(重量%)	
鋼	С	Si	Mn	P	S	Νb	Тi	Са	Ar ₃	
									(°C)	
A	0.05	0.70	2. 20	0.017	0. 003	-	_		753	本発明例
В	0.03	0.70	1.90	0.015	0.003	0. 020	-	0.0025	782	本発明例
С	0.04	0.70	1. 80	0.014	0.003	_	0.030	0.0020	783	本発明例
D	0.03	0.70	1.60	0.010	0.002	0. 015	0. 015	· -	800	本発明例
E	0.06	0.60	2.40	0. 015	0.003	_	-	0.0030	733	本発明例
F	0.05	0.10	1.90	0.016	0.003	0. 020	_	0.0020	756	比較例
G	0. 10	0.60	1. 20	0.015	0.003	0. 020	_	0.0020	788	比較例
Н	0.05	0. 90	2.00	0.018	0.003	0. 030	0.080	_	771	本発明例
I	0.04	0.70	2. 20	0.013	0.002	0.020	0. 130	0.0025	758	本発明例

J 0.10 0.70 1.60 0.015 0.003 0.030 0.100 0.0020 766 比較例 但し、Ar₃:896-509(C%) +26.7 (Si%) -63.5 (Mn%) +229(P%)

[0019]

20 【表2】

い 六柱げ	· (編光	a (do /d)	and 本発明例	益 本 本 発 明 例 本 発 明 例	a 本発明例 本発明例 本発明例	商 本発明例 本発明例 本発明例 本発明例	高 本発明的 本発明的 本発明的 本発明的 下 較 函	自 本 存 在 表 是 因 多 本 表 是 因 多 本 来 是 因 多 本 来 因 多 本 来 因 多 本 来 因 多 本 来 因 多 本 来 因 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多	高 本院。 本院。 中 大	春 本	商本本院。 中华的。 中华的。 中华的。 中华的。 中华的。 中华的。 中华的。 中华的	商本本	事本 本	春本本本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	李本本	· 本本本本	李本本本 上 土 木 木 木 土 土 土 土 木 木 木 土 土 土 土 土 土 土 土
			(p/ op) (%)	(d ₀ /d) 2.20	(d _o /d) 2.20 2.40	(d ₀ /d) 2.20 2.40 2.25	(d ₀ /d) 2.20 2.40 2.25 2.25 2.30	(do /d) 2.20 2.40 2.25 2.30 2.10	(do /d) 2.20 2.40 2.25 2.30 2.10 1.60	(do /d) 2.20 2.40 2.25 2.35 2.30 2.10 2.10 2.20	(do /d) 2 20 2 40 2 40 2 25 2 30 2 10 1 60 2 20 2 20	(do /d) 2.20 2.40 2.25 2.30 2.10 1.60 2.20 2.20 2.20	(do /d) 2 20 2 40 2 40 2 25 2 30 2 10 1 60 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2	(do /d) 2 20 2 20 2 40 2 25 2 30 2 10 1 60 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 1 90	(do /d) 2 20 2 40 2 40 2 40 2 30 2 10 1 60 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 1 30 1 30	(do /d) 2 20 2 20 2 40 2 25 2 30 2 30 2 10 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 2	(do /d) 2 20 2 40 2 40 2 40 2 30 2 10 1 60 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 1 90 1 135 1 85	(do /d) 2 20 2 20 2 40 2 25 2 30 2 30 2 10 2 10 2 20 2 20 2 20 2 20 2 20 2 2
				5	6 6	63 63	લ લ લ લ	0 0 0 0 0										
		(N/md)	١	919	610 603	610 603 596	610 603 596 620	610 603 596 620 692	610 603 596 620 692	610 603 596 620 692 732 615	610 603 620 692 732 615	610 603 620 620 732 615 608	610 603 596 620 692 732 615 608	610 603 620 620 692 732 615 608 625 724	610 603 620 692 732 615 608 625 624	610 603 620 620 692 732 615 608 625 621	610 603 620 692 692 615 608 625 625 621 803	610 603 620 620 692 615 608 621 621 803 851
_			_ -		2 9	2	5 5 C C	10 10 10	10 5 5 5 5 7 8	10 10 10 10 10	10 10 10 10 10	10 10 10 10 10 10	10 10 10 10 10 10	10 10 10 10 10 10 10	10 10 10 10 10 10 10 10	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	55 55 50 50 50 50	0 2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
イトナイン(%)	(%)		10	3	21	. 5	5 2 .	. 5 5 40	10 5 5 40 B+M*	10 5 5 40 B+M*	10 5 40 B+M* 10	10 5 40 B+M* 10 5	10 5 40 B+M* 10 10 5	10 5 40 8 + M * 10 5 20	10 5 40 B+M* 10 10 5 5 35	10 5 40 10 10 5 40 20 35	10 5 40 B+M* 10 5 20 20 20 20 25	10 5 40 40 10 10 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2
	. 0																	
72747	(%)	06		06	30	Š	8 8	80 82 83	38 98 19	36 95 95 90 96	66 60 90 90	90 90 92 93	66 95 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	80 92 93 93 93 93 93 93 93 93 93 93 93 93 93	. 88 88 88 88 88 88 88 88 88 88 88 88 88		. 88 89 85 75 75 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89	. 60 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90
	(1)	200		420	540	000	330	330 420	390 300	390 300 500	390 300 500 450	390 300 500 450	330 300 500 450 450	390 300 500 450 420	390 300 500 450 450 420	390 300 500 450 420 450	390 300 500 450 450 450 500	390 300 500 450 450 450 450 450 500
時間 (sec)		7	•	က	4	4	•	• 0	0 2	• 0 2 6	. O 51 th 41	. 0 2 6 4 7	. 0 2 8 4 6 0	0 2 8 4 6 0 8	. 0 5 6 4 6 0 6 4	. 0 5 6 4 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	. 0 5 6 4 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6	. 0 2 8 4 8 9 9 4 8 9 4
M		. 029		700	650	670		280	580 650	580 650 680	580 650 680 650	580 650 650 650	580 650 680 650 680 570	580 650 680 650 680 570 ·	580 650 680 650 670 570 680	580 650 680 680 570 . 570 670	580 650 650 650 570 670 670 670	580 650 680 680 570 670 670 670 670
递度 (C/sec)	(C/sec)		40	20	99	20		20	02 90	70 60 40	70 60 30	70 60 40 30 40	70 60 40 30 80	70 60 30 40 50	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	70 60 30 40 50 50 40	70 60 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70	20 20 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30
温度		(L)	820	870	840	890	•	006	900	900 870 870	900 870 870 860	830 830	870 870 870 880 830	900 870 870 880 900	900 900 870 860 830 900 870	900 900 870 880 830 900 870 870	900 870 870 830 900 870 870 870	900 870 880 830 900 870 870 870 870
河田 //		(L)	1230	1240	1220	1230		1220	1220 1240	1220 1240 1230	1220 1240 1230 1220	1220 1240 1230 1220 1220	1220 1240 1230 1220 1220 1220	1220 1230 1230 1220 1220 1220	1220 1230 1230 1220 1220 1220 1230	1220 1220 1220 1220 1220 1220 1230	1220 1220 1230 1220 1220 1220 1240 1240	1220 1220 1220 1220 1220 1240 1240
	器		4	æ	ш	<u>~</u>	3	В		<u>я в в о</u>	о m m о D	ввобя	ы m m o d m m	B B D D E E	B B O D E E G	н с ч н н н н н н		
	ş			2	က		4	4 3	5 5	4 2 2 4	8 4 6 5 4	6 6 8 8	4 5 6 6 7 7 7 10	4 5 6 6 7 7 7 7 7 10 10	4 5 6 6 6 7 7 7 7 7 10 10 11	44 66 66 66 77 77 110 111 111 113	4 4 4 6 6 6 6 6 6 9 9 9 9 9 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6 9 9 9 9 9 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11

【0020】このようにして得られた熱延鋼板について、JIS5号片による引張試験、穴拡げ試験、組織観察を行った。尚、穴拡げ試験は径12mの打抜き穴を60°円錐ポンチにて押し拡げ、クラックが板厚を貫通した時点での穴径(d)と初期穴径(d。:12m)との比(d/d。)を併せて表2に示した。尚、鋼A \sim Gは引張強度590N/m² クラス、鋼H \sim Jは引張強度780N/m² クラスのものである。

【0021】しかして表2に示すようにNo. 1, 2,

3、1、7、8、9は引張強度590N/ m^2 クラスの本発明例であり、穴拡げ比2、20~2、40、伸び28~32%を示し、またNo. 13、15は引張強度780N/ m^2 クラスの本発明例であり穴拡げ比1、80~1、85、伸び22~23%を示し、何れも良好な材質となっている。一方、本発明の条件を外れた比較例では伸び、穴拡げ値が不十分なレベルである。

[0022]

50 【発明の効果】本発明によれば強度590N/mm² クラ

(6)

特開平6-293910

スで伸び≥26%、d/d。≥2.10、強度780N 性に優れた熱延高強度鋼板を経済的に供給できるように /ww² クラスで伸び≧20、d/d。≧1.8という従 なったもので、産業上極めて有用なものである。 来にない優れた強度-穴拡げバランスを有し、かつ、延

10

フロントページの続き

(72)発明者 山崎 一正 東海市東海町5-3 新日本製鐵株式会社 名古屋製鐵所内